

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第26回）

小学1年生の教科書の取り扱い、ようやく決定

昨年末は小学1年生の教科書のレビュー、承認、さらには導入時期の決定など、いろいろなことがあり、CDTやCREATEのローカルスタッフは日々の膨大な仕事量に加え、精神的なストレスや心配からしばらく眠れない日々が続いたようです。

ただ、年明けすぐに教育省から待ちに待った本件についての正式決定が出されましたので、CREATEの関係者もやっと一息ついたところです。しかし、その「一息」もほんの数時間程度の短い時間で、すぐに導入研修の準備や小学2年生の教科書開発に着手したところです。

小学1年生の教科書に関する教育省の正式決定の内容は以下のとおりです。

＜小学1年生用教科書＞

ミャンマー語、英語、算数、理科、社会、道徳公民の6教科については、全国の小学校の児童に無償配布を行う。体育、ライフスキル、芸術（図工、音楽）の3教科4科目については、全国の小学校の教員にのみ配布する。ただし、児童に教科書を配布しない3教科4科目については、授業実践において必要と思われるナイロン製の教材等を各学級に配布する。

＜小学1年生用教員用指導書＞

全国の小学校の教員に配布する。

＜導入時期＞

2017年6月より全国一斉に導入予定とする。

ただし、この決定は「初等教育における教科書の取り扱い」という包括的なものというよりも、今回の事項、すなわち「小学1年生の教科書に関して」の決定と理解できるため、今後の小学2年生の教科書及び教員用指導書の開発は、現時点においては従来通りで行っていきたいと考えています。ただ、本件については、これからも引き続いて教育省の考えを確認していく予定です。

小学1年生の教科書完成までの軌跡

ご存じのように、CREATEは2014年5月に開始されましたが、それ以来、昨年末まで小学1年生の教科書と教員用指導書の開発を続けてきました。実に、2年8ヵ月（32ヵ月）もの膨大な時間を要したことになります。そこで、この機会にこの2年8ヵ月を振り返ってみたいと思います。

次の表を見て頂くと分かるのですが、CREATEの開始以前に我が国とミャンマー政府との間で取り交わされた合意書(R/D)及び2015年8月27日にJICAと教育省合同で開催した合同調整委員会(JCC)の場で、①すべての教科（9教科10科目）の教科書を開発すること、②教員用指導書においては教科書内容の最低限30%をカバーするように作成すること、の二点について確認し合意を得ていたのですが、昨年6月から10月にかけて教育大臣からこれらの合意を覆すような指示が出されました。特に「教科書の配布は5教科のみにしたい」と及び「教科書承認が11月末までになされない場合、導入は2018年としたい」という発言はCREATE関係者に大きな衝撃を与えました。ただ、こうした衝撃的な発言が出された後でも、教育省の内部からは「全教科目の教科書の印刷を行いたい」「2017年度の導入に向けて教育省も全力を尽くしている」という従来通りの考え方を堅持した意見も聞こえ、CREATE関係者はその残された僅かな希望を胸に、これまで作業を続けてきたと言っても過言ではありません。

年	月	主な出来事							
2014	5	CREATE 開始	カリキュラム・フレームワーク開発	↓	↓				
	6	カリキュラム・フレームワーク（第1案）完成 教科別カリキュラム・アウトラインの作成							
	7	SWC とのカリキュラム・フレームワーク（第1案）についての会合 小学1年生の教科書開発開始							
	8								
	9	SWC とのカリキュラム・フレームワーク（第2案）についての会合							
	10								
	11								
	12								
	2015	1				CREATE、教科書開発ガイドライン作成	↓	↓	↓
		2				カリキュラム・フレームワーク（第3案）についてのセミナー CREATE、SWC との初会合			
		3				カリキュラム・フレームワーク（第4案）完成			
		4				カリキュラム・フレームワーク（第5案）完成			
5		教育大臣によりカリキュラム・フレームワーク（第5案）承認							
6		教育省によるカリキュラム・フレームワーク周知セミナー開催 CREATE、教員用指導書開発ガイドライン作成							
7		ヤンゴンの公立校 10 校でのトライアウト開始							
8		JICA、教育省と合同調整委員会（JCC）開催、CREATE の業務内容について確認と合意							
9									
10									
11		SWC との正式に共同作業開始、EC（編集委員会）の設立							
2016		1		↓	↓	↓			
	2								
	3	CREATE、全教科目の教科書（第1案）完成							
	4								
	5								
	6	教育大臣：農村部でのトライアウト実施を指示 教育大臣：教科書配布は5教科のみにしたいとの発言 SWC と遠隔地でのトライアウトに関するセミナー開催							
	7								
	8	CREATE、教員用指導書（30%版）（第1案）完成							
	9	教育大臣：JICA 本部調査団との会合で、教科書承認は NESP と NCC にあること、教科書承認が11月末までになされない場合、導入は2018年としたい、児童配付教科書は5教科のみにしたいとの発言 国家教育政策機関（NEPC）設立							
	10	教育大臣：小学1年生の教員用指導書は100%内容カバーを指示 NEPC、教科書レビュー開始							
	11	国家カリキュラム委員会（NCC）設立 NCC、教科書レビュー開始							
	12	NCC、教科書レビュー終了							
2017	1	教育省：児童配付の教科書は6教科、残り3教科（4冊）は教師のみに配布、新しい小学1年生教科書は2017年6月より導入を決定							

このようにこれまでの作業を振り返ると、SWC や NCC による教科書及び教員用指導書のレビューにもかなりの時間を要したことが分かります。CREATE が作成した『教科書開発ガイドライン』（全 20 ページ）には SWC によるレビューについては「初校」、「二校」、「三校」と 3 回行うことを定めていますが、実際には、各教科平均で 6～7 回のレビューを行い、さらに NCC でも平均 5 回程度のレビューを行いましたので、合計すると 11～12 回のレビュー、すなわち「十二校」まで作成されたという驚きの事実が分かりました。このレビューで SWC 及び NCC に提出した教科書は 1,200 冊、教員用指導書は 960 冊にもなります。すべて複写製本をしましたので、コストはかなり高くなりました。このよう

な作業を行ったこと自体、ミャンマー側にとっては教育史上初の経験であり、手探りで行っていく中で、結果としてこのように多大な時間と労力と費用をかけることになってしまったということも否定できません。このことはすでに教育省とも共有し、今後の作業についてはもっと効率的に行っていかなければならないことを話し合い、その具体的な解決策を検討しているところです。

小学2年生の教科書開発、いよいよ開始

CREATE では、2017年1月19日より正式に小学2年生の教科書開発を開始しました。ただ、小学2年生の教科書及び教員用指導書の開発にかけられる期間はそれほど多くはありません。最大でも約10ヵ月といったところです。そこで、開発作業を少しでも効率的に行えるように、CREATE では1月17日にNCCと、1月19日には教育省及びSWCと緊急会議をもち、以下の点を確認しました。

(1) 教科書開発における基本方針

- 文語体と口語体の使用
- 使用フォント
- 単元の最初に単元目標の記載の有無
- ページ数の限度

(2) カリキュラム・フレームワークの位置付け

- 旧政権において承認を得ているカリキュラム・フレームワークは新政権において再度NCCによる承認を受けるということであるが、現在どうなっているか

(3) NCCとSWC及び教育省の役割

- どの組織も、主として小学1年生の教科書レビューを行うことになっていたが、それぞれから出された意見やコメントに一貫性が欠けていることが多かった。それぞれの役割分担を明確にしていく必要がある



結局、上記の2回の会議ですべての事項が明確になった訳ではありませんが、(1)「教科書開発における基本方針」は、CREATE が作成した「教科書開発ガイドライン」をまず教育省に提出し、内容が検討された後、NCCにて同ガイドラインをミャンマーにおける初等教科書の基本方針にするということが決定しました。次の(2)「カリキュラム・フレームワークの位置付け」については、NCC側に内容を再度検討し、承認する責任を負っているという認識がなかったようで、座長からは至急内容を検討して承認作業に入るという意見が出されました。最後の(3)「NCC、SWC及び教育省の役割」については、引き続き、検討していくことになりました。

かなりのCDT、異動か！？

ご存じのように、現在、教科書開発に携わっているカリキュラム開発チーム(CDT)のメンバーは43名います。実は、CDTはCREATEが開始される半年前の2013年9月に教育省によって正式に発足し、開始当初47名で始まりました。しかしながら、現在に至るまでに様々な理由でかなりのCDTが入れ替わっています。そして、発足時から現在まで続いているCDTメンバーはわずか28名となっているのが現状です。この28名は発足時から3年4ヵ月もの間、厳しい住環境にも負けず、本当によく頑張ってくれたと思っています。

さて、ここに来て再びCDTの入れ替えの問題が浮上してきました。実は、昨年暮れに教育省がCDT全員に対して、異動希望の有無を書面で提出させたようです。その結果、11名(うち8名はCDT発足当初からのメンバー)から異動希望が出たということです。理由は、健康に関わること、家庭に關す

ることなど様々ですが、教育省は CREATE の運営状況も考慮しながら最終決定をするということです。異動時期についてはまだ教育省からは明らかにされていませんが、毎年 6 月に新学年が始まることを考えると、今年 5 月頃には異動が行われるのではないかと考えています。当然、CREATE としては、異動があった際には新しい人員を速やかに補充することを前提条件として教育省と議論を進めているところです。

導入研修、始まる！

小学 1 年生の新しい教科書が今年 6 月から導入されるという正式決定を受けて、それに向けた現職教員対象の導入研修が始まりました。管理者研修（2 日間）は 1 月 16 日（月）から、現職教員研修（14 日間）は 1 月 23 日（月）から開始されました。この中央研修に参加された先生方は、この後、地方域（Regions）及び州（States）で行われる研修の講師としての役割を果たします。さらに、その後はタウンシップ（郡区）、各学校へと順次、現場に近いところまで研修が実施されることになっています。

今回のこの中央研修は、ヤンゴンの北部（空港を超えてさらに北に 20 km ほどのところ）にある教育省管轄のタウクチャント（Htauk Kyant）研修所で行われているため、研修担当の専門家はじめ、教師教育チーム（TE）のカウンターパートは、その近くのホテルに滞在して、早朝から夜遅くまで研修の運営実施にあたっています。



以上

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）